

グローバリゼーションの経済学		講義	教授 田中 秀臣	
科目カテゴリー	スポーツマネジメントコースの専門選択科目, スポーツトレーナーコースの専門選択科目	科目ナンバリング	11322218	

1. 授業のねらい・概要

グローバリゼーション（グローバル化）といわれる各国経済の国際的統合は、主にヒト、モノ、カネ、情報の国際間の移動として今日見ることが出来る。ヒトの移動は例えば、今日の日本でも政策的課題になっている外国人労働者の問題、または国際的紛争の激化などに伴って大量に発生している難民の問題、さらには海外旅行から商談のための一時的な国際間移動まで多様な広がりを持っている。またカネの移動はより複雑である。今日のモノやヒトの移動を数倍するカネの国際間の移動は、それらの移動やネットワークが妨げられた新型コロナ危機の中で、世界経済への不況の波及、世界経済の政策的対立である緊縮と反緊縮、それに関連する政治的ポピュリズムの動きなど、今日でも世界の人たちの注目を集めている。情報の国際間交流も多様で深い。一例では、インターネットの拡充とソフトウェアの進展によって、言語の敷居が低くなり、さまざまな国の文化的現象を消費しやすくなっている。またポストコロナの中で、世界の経済的ネットワークやサプライチェーンの再構築、そしてデジタル・トランスフォーメーション、また地球環境問題の行方がどうなるかについて注目を浴びている問題でもある。この講義では、これら多様な国際間の経済活動の進展をいくつかのトピックスに絞って解説していく。

2. 授業の進め方

特に教科書は用いないで毎回、Power Point などを利用して解説していく。初心者でも予備知識なくグローバル化経済の理解が深まるように講義は進行していくだろう。日々の時事問題をできるだけ取り入れるので、授業計画は柔軟にその都度変更を加えていく。

3. 授業計画

1. ポスト・新型コロナ禍とウクライナ戦争以降のグローバル化を考える	9. 中国経済の中所得国の罍
2. 米中貿易戦争以後の国際貿易の変化	10. 北朝鮮と韓国の経済
3. イスラエル・ハマス戦争と中東の経済・政治	11. 米国大統領選と米国経済の動向
4. 経済格差は世界的にどうなるのか	12. ユーロ圏とイギリス経済
5. 世界の貧困問題	13. ロシア経済と資源の経済学
6. ピケティ「資本とイデオロギー」解説	14. 地球環境の経済学
7. 緊縮 vs 反緊縮	15. 仮想通貨・メタバース・AI の経済学
8. 難民問題（欧州、アフリカなどの事例）	

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

毎回の授業の前に指定された参考資料を各自よく学んでおくこと。目安として1時間程度の学習時間が必要。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

試験実施後、レポートについては提出後に、標準的なレポートの書き方、求められたポイント、高得点のためのコツなどを解説する。

6. 授業における学修の到達目標

グローバル経済の動向と、日ごろからの時事的な問題を国際的・経済的観点からおさえることができる関心を養う。

7. 成績評価の方法・基準

授業中の取り組む姿勢を重視する（50%）。期末には試験またはレポートを提出させて総合的に評価（50%）していく。

8. テキスト・参考文献

教科書はなく適宜配布資料や power point で解説していく。

9. 受講上の留意事項

特にないが、熱意をもって講義を理解しようとする姿勢が重要である。また現実の経済の話題に常に注意を払ってほしい。疑問や議論があれば積極的に質問してほしい。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当しない。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。